

## 「平成14年度 板橋区における社会貢献団体等との協働事業一覧」に関するアンケート 集 計 結 果

- 板橋区実施による「平成14年度 板橋区における社会貢献団体等との協働事業一覧」（概要）  
別紙 参照

- 当アンケートの送付団体（計28団体）

NPO 法人いたばし総合ボランティア市民活動センター，NPO 法人トライアル，NPO 法人商店街とまちづくり研究会，生活と文化の会，NPO 法人板橋まちづくりセンター，NPO 法人 KIKIWEB，いたばし自助具工房とんかち，enjoy ボランティア板橋，板橋フリー栄養士会，NPO 法人アビリティクラブたすけあい板橋たすけあいワーカーズあやとり，NPO 法人健やかネットワーク，げんきかい，板橋老後を良くする会ひまわり，シルバーボランティア銀の橋の会，婦人学級OB会にりんそうボランティア部門，みのり会，板橋区肢体不自由児者父母の会，板橋区身体障害者福祉協会，NPO 法人ワーカーズコープ，大東文化大学児童研究会，ボランティアグループS V板橋，NPO 法人自然と遊びの会，いたばし水と緑の会，一步の会，さき織りつるの会，NPO 法人エコ・コミュニケーションセンター，エコ絵漉はがき絵の会

- アンケートに回答いただいた団体

12団体

\*\*\*\*\*

### アンケートの設問と回答

問1. 「事業一覧」に協働団体として記載されていたことを知っていたか。

- ア 知っていた 8
- イ 知らなかった 4

問2. 記載事業を「行政との協働」との認識があったか。

- ア ある 9
- イ 少しはある 3
- ウ ない 2
- エ どちらともいえない 0

（複数事業で認識が異なる団体がありトータルは合わない）

### \*それぞれの理由

- ア ・ 委 託：委託を受けて計画や実施は自分達が行った。  
事業協働：具体的な計画は自分達で立案し行政と相談して決めた。  
共 催：参加グループがそれぞれの立場で意見を出して具体案を決めた。
- ・ 協働で始まり協働で進んでいる。
  - ・ 自助具を必要としているが本人自身、自助具を作る活動をしている団体を知らないという状況下でニーズの掘り起こしを行政サイドで担ってもらっており役割分担が明確にできている。
  - ・ ボランティアは行政の協力なくては活動はできないと思いますのでよろしくをお願いします。
  - ・ 民と官が協働する事で出来るから。
  - ・ エコポリスセンターにてリサイクルに基いたサークル活動を行い、もっぱら見学者に啓発および体験を行い区民まつりで区民の方に体験および啓発を行っている。
  - ・ 「自然あそび」という環境教育のはじめの一歩がひろがっていくためには保育士、幼稚園・小学校教員、児童館職員がまず自分で体験し子どもたちの体験学習を指導できるようになることが必要である。この研修の場合、区の保育士担当課が参加者を集めエコポリスセンターが場所と予算を提供しNPOが専門的な内容を指導するという協働が成り立っている。
- イ ・ 行政との協働であるという認識はあるが一覧に記載されているとは知らなかった。会の活動としては今までどうりで可なのでしょうか。
- ・ 保健センターのお声がかりで出発したと思っています。
  - ・ ボランティア活動を始めて15年、会員も高齢になり会としては何とか活動をしているが他との連携が出来にくくなっている。
- ウ ・ 2つの事業（3事業のうち）については相互の特性を生かした分担ができておらず単なる下請けである。

### 問3. 記載の協働事業を行う（行った）にあたり行政に望むこと。

- ・ 事業日程の設定（決定）はなるべく早く行って連絡してほしい。
- ・ 今までも適切な協力を受けている。今後も協力をお願いしたい。
- ・ 我々ボランティアの活動時間は終末や休日であり、区の職員が働けるのは勤務時間内が原則であり区の施設も休日利用は難しく、お互いの制約から時間的に協働には無理があると思う。
- ・ 基本的なことですがボランティア活動についての考え方で行政の考え方、ボランティアの考え方の温度差をどう適温にするか。
- ・ 一方通行にならないように私達の意見も取り入れて下さい。
- ・ 過去の実績にとらわれない事。新しい事とはいつも初めてである。
- ・ 行政の担当者もできるだけ多くの参加者および理解を望む。

- ・母体からの運営費援助と参加者から100円の会費で、あとは関わるボランティア側の援助で月1回の運営を賄っています。多少の予算付けを希望します。
- ・研修後、実際に各団体等で実施した「自然あそび」の報告・評価の場をつくってフォローしてゆくこと。
- ・相互の特性を生かした分担。
- ・ほんとうにささやかな手作りボランティアを確実に実行している会を認め、後押しをしていただきたい。
- ・要介護認定調査に関しては研修があるといいと思います。
- ・生活支援、精神ヘルパーはケアカンファ等意見交換の場があるといい。

#### 問4. 行政との“協働”の理想的な形について。

- ・個人情報を除いて一般情報は公平、公正、公開を心がけてほしい。
- ・互いに協力しあって会員の要望に応えていきたい。
- ・活動団体としてあらゆる対応力を持った形で自立することが協働の理想的な形への前提と思う。
- ・ライン引きは行政の仕事（ボランティアと良く事前話し合いをする）。現場はボランティア（責任を持って行動する。これには行政は口をだしすぎないこと。信頼してください。）
- ・板橋区は都内随一の福祉の区と思います。それ故、区の財政も大変なことと存じます。
- ・相互了解と信頼。
- ・行政はNPOを単発の講師や下請けとみなすのではなく、年間、あるいは数年を通して協働してなにを作ってゆくのかという目標についての合意形成にもとづく事業をすべきである。
- ・NPOの特性が生かされるよう柔軟な仕組みが必要。
- ・相互に意見交換のできる機会、立場で進んでいけばいいのではないかと思います。
- ・行政の後押しと他のボランティアグループとの交流を深め若い人の参加をうながしたい。

以 上